

〈農業分野〉

第2節 多様な担い手による豊かな暮らしを支える農業の持続的発展

〇小郡ファーマーズマーケット

「小郡市食と農の複合施設調査研究委員会」では、小郡の魅力をもっと多面的に発信して広域集客を実現する施設について議論が交わされてきました。そうした中で、小規模でも多額の資金を投入せずに「農」の魅力を発信する「ソフト型」の取組は近隣でも行われていることから、小郡市でもそうした事業に着手していくべきではないかとの方向性が定められました。

これを受け、小郡市の「農」を結集し、小郡市の「農」のポテンシャルを引き出し、「農で稼ぐ」ことを目指す仕組みづくりができるイベントを実施していくこととなりました。

イベントを通じて、(1)小郡市の農業の魅力をもっと、市民を中心とする消費者に広く知らせ、地産地消の推進、(2)農業に関するイメージアップやブランド力の向上を促す「小郡ブランド」の確立、(3)そうしたことを通じて、若手農業者を中心とした新たな担い手の育成や確保を図る、ことを目的としています。

令和2年2月9日、大崎ポケットパークにおいて開催するにあたり、チラシの配布やポスターの掲示、市広報やSNSを用いたPR等を行った結果、来場者は3千人を超える集客が実現しました。



【商品紹介シート】

また、本イベントが、農業者と事業者を繋げる場として機能するように、飲食事業者向けの「商品シート」と「出荷者シート」を用意し、イベントに来場した飲食店や商工業関係者がシートを活用して直接商談ができるように準備しました。また、飲食店や商工業関係者が来場するように、小郡市商工会と連携し、イベントの周知を図りました。

農産物の高付加価値化の面においては、小郡市4Hクラブが販売した合格祈願が込められたイチゴ「イチゴーかく」や、小郡☆農ガールズによる小郡市の七夕伝説をイメージした「恋する甘酒」は完売したことから、小郡市の特産品づくりの観点からも意義深いイベントになったと言えます。

イベントの売上は各農業団体で収益に差がありましたが、それもひとつの反省点として捉えています。イベント開催を契機として組織されたグループである「小郡ファーマーズ」は、「農で稼ぐ」という最終目標に向けて、これからも様々な取組を行っていく予定です。

○小郡市4Hクラブの活動支援

市内の若手農業者が、イベントを通じた地域貢献活動や親睦を図ることにより、農業の生産技術や経営を学ぶとともに、生活上の課題を解決する力を養うことを目的としてつくられた学習グループで、全国組織。4Hとは、head(頭)、hand(手)、heart(心)、health(健康)の4つの英単語の頭文字をとったもの。

元年度は、野菜を共同で栽培し、栽培技術向上を図る取組に着手しました。また、八代市の先進地視察研修や園児の「餅つき体験」といった食育事業も行っています。元年度から始まった小郡ファーマーズマーケットで、野菜販売(共同作業で栽培したキャベツ・白菜・大根)を行うとともに、催して行ったネギ焼きが好評でした。



【食育プロジェクト:餅つき体験】



【共同野菜栽培プロジェクト】

○SNSを活用した情報発信

8月1日から赴任した地域おこし協力隊(地産地消コーディネーター)により、SNSを駆使した情報発信が行われています。フェイスブックを足掛かりに、令和2年3月からはツイッターとインスタグラムも始めています。

情報速度の早さと掲載情報選択の柔軟さは、市の公式ホームページではできません。年度途中からの情報発信ですが、食料・農業・農村に関わる情報だけでも、アップ数は既に130を超えています。



○民間団体による特産品化の動きを支援(小郡市農産物特産品化事業)

市内で生産された農産物等の高付加価値化を図る農業者団体等に対し、加工品開発費やPR等にかかる費用の一部について支援を行うために補助事業を行っています。

○七夕枝豆

平成28年より始まった七夕枝豆の生産は、「七夕枝豆を広める会」(小郡市飲食店組合と宝満の市で構成)が取り組んでいる事業。「七夕の里おごおり」にちなみ、年毎に七夕神社と老松宮で交互に豊作祈願のお祓いを受けた黒大豆(早生黒頭巾)の種子を用い、七夕の季節に提供しています。

「小郡七夕枝豆収穫祭」では、小郡市商工会女性部や女性再チャレンジ支援事業の対象団体である「ORI☆HIME」による雑貨販売、

ステージイベントをまじえて、七夕枝豆をPRされていました。

例年、七夕枝豆を使った一品料理を提供する「小郡七夕枝豆フェア」は、元年度より趣向を変えました。「小郡枝豆スタンプラリー」と題し、8月1日～10月31日(エダマメがなくなる)まで期間を延長しました。前半は「七夕枝豆」、後半は「キヨミドリ」を提供することでPR効果を高めようとしています。

また、新たな取組として「スタンプラリー」が行われています。フェア参加店舗での飲食1回につきスタンプ1個が捺印され、スタンプ5つで応募できる「商品券(飲食券)」を抽選でプレゼントするという企画です。

しかし、7～9月の天災が収穫量に影響を及ぼし、フェア終盤には提供商品が無かったという残念な結果になっています。



○恋する甘酒

平成30年11月に組織された市内女性農業者グループ「小郡☆農ガールズ」が本市特産品を創出すべく手掛けたのが、市内の農場で有機農法により作付された酒米(山田錦)と赤米(ベニロマン)を原料にした甘酒です。

令和元年11月27日、販売に先駆けて、市民参加型の試飲会を開催されています。醸造会社2社に試作品を作成してもらい、赤米原料2本、酒米原料1本、赤米と酒米のブレンド1本の4本を飲み比べし、商品化するにあたりアンケート結果を反映させています。





【試飲会場風景】

商品パッケージは2種類を作成されています。普段使い用と贈答品用です。贈答品用は、赤米原料甘酒をオリヒメ、酒米原料甘酒をヒコボシに模した意匠となっています。

小郡ファーマーズマーケットをはじめとするイベントやふるさと納税における返礼品としての展開をされており、元年度の生産分は好評につき完売されたとのこと。

市は、試作品やラベルデザイン、リーフレット等作成にかかる費用の一部について支援をしています。

○「イチゴーかく」の限定販売

令和元年の7月と8月の豪雨災害によりビニールハウスが浸水被害を受けたものの、その後の栽培努力により収穫できた小郡産「あまおう」が、困難を乗り越え合格というゴールを目指す受験生に重なることから、「イチゴ×合格」の語呂合わせで、「イチゴーかく」と命名して、小郡ファーマーズマーケットで200パック数量限定販売しました。

マスコミに取り上げられたこともあり売れ行きも好調で完売しました。



○農商工連携

農商工連携とは、農林水産業者と商工業者がそれぞれの有する経営資源を互いに持ち寄り、新商品・新サービスの開発等に取り組むことです。

一般的に、農産物が生鮮品として市場に流通させるには、サイズや傷の有無、形などの「規格」が定められています。農産物は生物である以上、農産物の規格が全て揃うことはなく、必ず流通させることが難しいB級品が発生します。多くの農家は、B級品がなるべく発生しないように努力する一方、味や風味はA級品と遜色ないB級品を活用できないか常に頭を悩ませています。

平成30年度に、市内のイチジク農家から地域おこし協力隊へ相談が持ち掛けられたことから、商工業者と連携を図る取組が模索されました。

令和元年度は、市内のカフェ「ALES Café」と筑前町のベーグル専門店「こみせ」でイチジクを使用したメニューが考案されました。



「ALES Café」

では、イチジクのパフェとタルト、「こみせ」では、少し苦みのあるクルミの生地
にセミドライにしたイチジクを練りこんだベーグルを期間限定で販売されました。



○農業用施設の計画的改修等を実施

- ・河川に設置している農業施設の改修等
- ・農業用ため池の改修等保全
- ・揚水機場保全工事:味坂地域、御原地域
- ・ため池ハザードマップ(30箇所)作成



【影堤：堤体・波受ブロック・取水施設・洪水吐】

【稲吉堰：改築】

○農地パトロール

市内農地で遊休農地((1)現に耕作の目的に供され
おらず、かつ、引き続き耕作の目的に供されないと見
込まれる農地、(2)その農業上の利用の程度が周辺
の地域における農地の利用の程度に比し著しく劣
っていると認められる農地)となっている箇所につ
いて市内を巡回して確認し、改善指導を行って
います。

- ・9月26日 午前:御原、午後:味坂
- ・9月27日 午前:小郡、午後:三国
- ・9月30日 午前:立石



○災害復旧事業

令和元年度は、平成30年7月豪雨に続いて2年連続、そして7月、8月、9月の3か月連続で災害が発生し、農業分野にも甚大な被害をもたらしました。災害復旧のために、国・県・市・J A・農業共済などの関係各機関が連携を図って復旧事業に取り組みました。

しかし、復旧事業に多くの方が同時期に取り組んでいることから工事が間に合わず、令和2年度も引き続き復旧作業を行っている農業者もおられます。



○令和元年7月豪雨災害

【左：干潟草場川破堤状況】



【右：災害復旧工事後】

○環境保全型農業直接支払交付金事業

農業の持続的発展と農業の有する多面的機能の健全な発揮を促進するために、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動に対して支援を行っています。

エコファーマー認定者や「ふくおかエコ農産物認証」取得者で構成される団体が対象で、化学肥料や化学合成農薬の5割以上低減することが条件です。

令和元年度が、一期5年の最終年度となりました。取組項目は減少しましたが、取組面積は増加しています。

- ・3グループ
- ・対象面積:4,687a(カバークropp:1,187a、有機農業:3,500a)

